

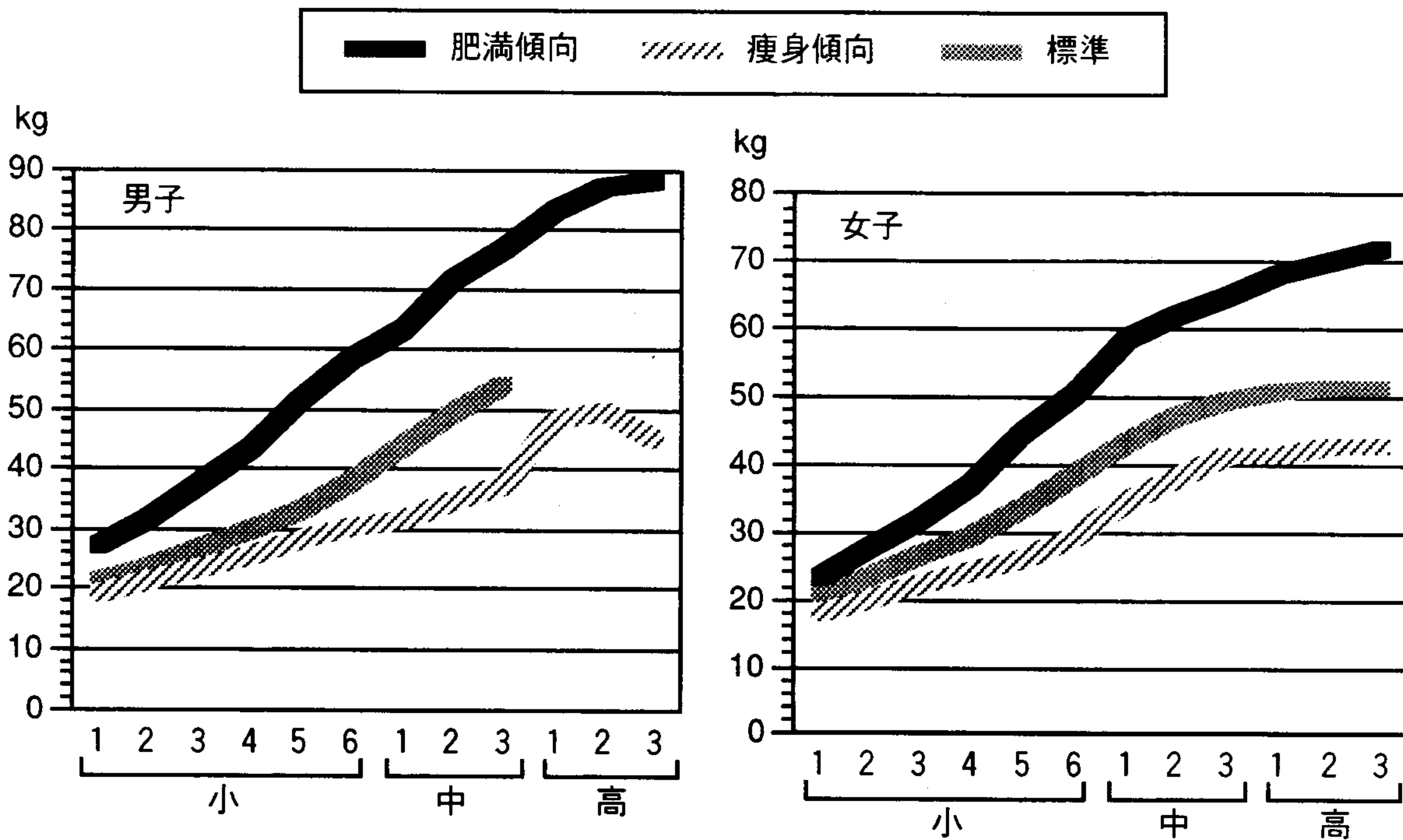
肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

加齢に伴い体重差は大きくなる

- 肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容を評価するために、遡及的な体重の縦断的データを得た。
- 標準児における体重の年齢に伴う変化を基準にすると、肥満傾向児の体重は年齢とともに増加し、標準児および痩身傾向児との間の差がしだいに大きくなっていく傾向であった。
- 痩身傾向児の体重は、年齢に伴い増加していくものの、標準児および肥満傾向児の発育量には及ばず、しだいに体重の差が大きくなっていく傾向であった。
- このような傾向は、男女ともに同様なものであった。

資料37 体重の変容：肥瘦傾向判定群

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994



年齢	男子						女子					
	肥満傾向		痩身傾向		標準		肥満傾向		痩身傾向		標準	
	平均	S D	平均	S D	平均	S D	平均	S D	平均	S D	平均	S D
6歳	27.41	6.93	19.20	3.39	21.09	3.61	23.43	4.84	18.06	1.95	21.04	2.69
7歳	31.68	8.78	21.05	3.61	23.64	3.83	27.47	6.23	19.91	1.84	23.42	3.05
8歳	37.56	10.58	23.30	3.82	26.94	4.51	31.77	7.62	22.14	2.20	26.41	3.67
9歳	43.65	11.54	25.70	3.82	29.84	5.40	37.31	8.93	24.13	2.46	29.53	4.48
10歳	51.41	12.38	28.06	1.95	33.41	6.36	44.54	12.37	26.30	2.81	33.61	5.28
11歳	58.67	13.90	30.50	1.78	38.09	7.65	50.53	10.88	29.49	3.76	38.67	6.17
12歳	63.47	12.41	31.60	4.91	43.85	8.85	58.67	10.66	34.60	4.77	43.46	5.85
13歳	71.69	13.86	34.60	5.40	49.36	8.81	61.87	10.19	38.15	4.75	47.29	5.29
14歳	76.74	11.48	37.55	6.64	54.29	7.92	64.67	9.89	41.30	5.40	49.70	5.13
15歳	83.12	10.72	48.30	9.28			68.11	8.94	41.54	5.22	50.96	5.68
16歳	87.12	9.89	49.93	12.66			70.29	10.95	42.63	3.99	51.64	5.55
17歳	88.39	9.99	45.15	1.95			72.01	10.14	42.98	4.29	51.52	5.58

肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

加齢に伴い肥瘦度の差は大きくなる

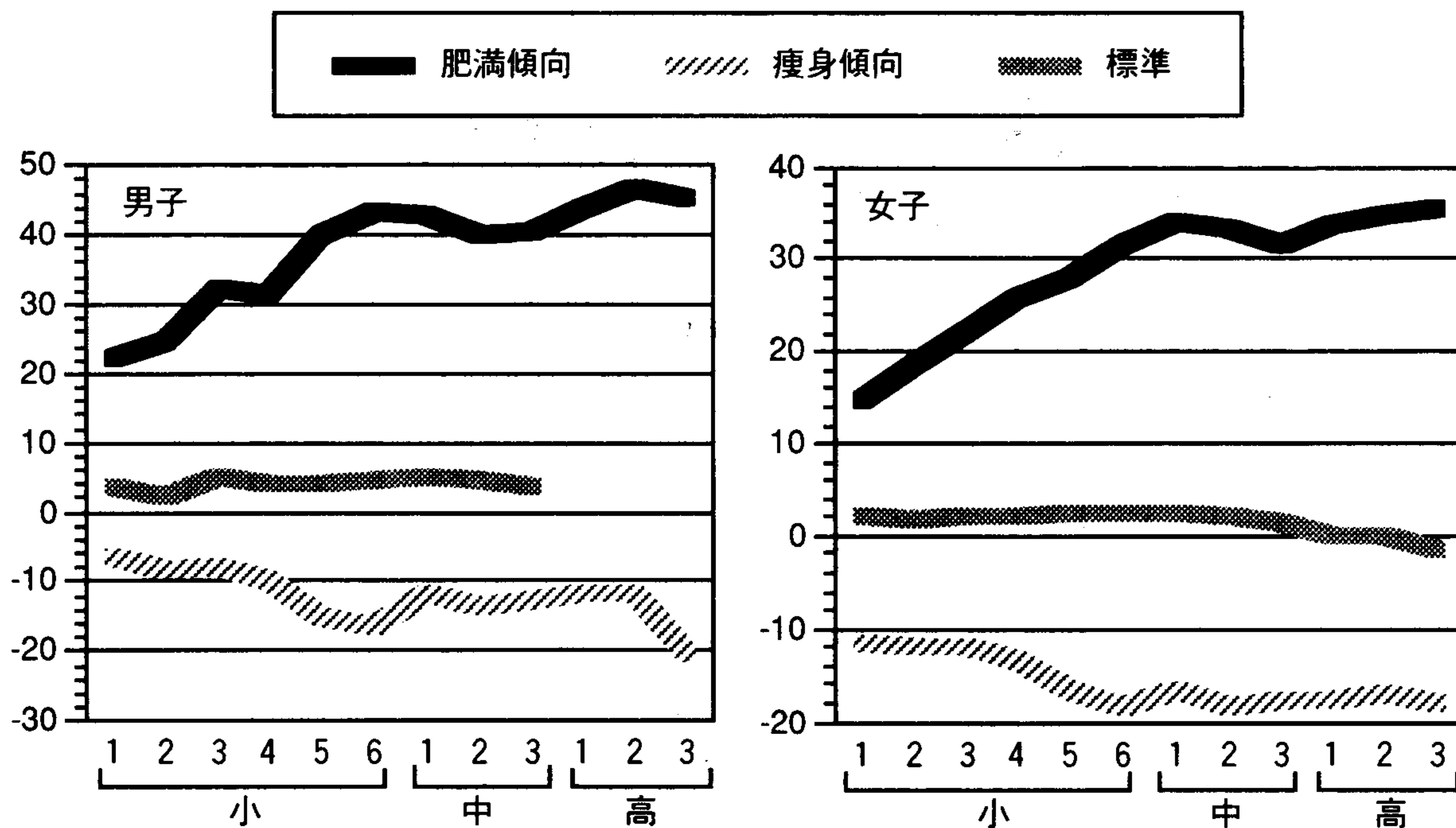
- 肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容を評価するために、遡及的な身長および体重の縦断的データから肥瘦度を得た。
- 標準児における肥瘦度の年齢に伴う変化を基準にすると、肥満傾向児の肥瘦度は年齢とともに増加する傾向であった。一方、痩身傾向児の肥瘦度は年齢に

伴い減少する傾向であった。その結果、標準児、肥満傾向児および痩身傾向児との間の差はしだいに大きくなっていく傾向であった。

- このような傾向は、男女ともに同様なものであった。

資料38 肥瘦度の変容：肥瘦傾向判定群

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994



年齢	男子				女子							
	肥満傾向 平均	S D	痩身傾向 平均	S D	標準 平均	S D	肥満傾向 平均	S D	痩身傾向 平均	S D	標準 平均	S D
6歳	22.13	21.48	-6.48	1.72	3.62	9.47	14.69	15.07	-11.40	7.99	2.23	8.63
7歳	24.60	24.37	-8.50	1.72	2.37	10.53	18.78	17.72	-11.91	6.43	1.67	8.18
8歳	32.16	26.16	-7.78	1.02	4.89	9.52	22.21	18.81	-11.74	6.39	1.97	9.14
9歳	31.27	19.75	-9.71	0.75	4.24	11.10	25.91	18.71	-13.29	5.74	2.28	9.50
10歳	39.92	19.43	-15.20	4.52	4.11	11.05	27.97	17.58	-16.45	5.02	2.37	9.61
11歳	43.42	18.99	-16.49	4.80	4.80	11.13	31.71	16.58	-18.34	5.65	2.64	10.35
12歳	42.95	16.85	-11.80	6.86	5.10	11.84	34.25	15.59	-16.48	8.78	2.45	10.79
13歳	40.07	17.94	-13.70	5.64	4.78	10.36	33.45	16.23	-18.20	7.68	2.29	9.66
14歳	40.52	18.85	-12.46	6.21	3.84	9.46	31.53	15.93	-17.62	8.39	1.48	9.17
15歳	43.72	15.95	-11.48	16.22			33.69	13.74	-17.62	6.76	-0.05	10.71
16歳	46.56	16.00	-11.69	20.42			35.00	15.38	-17.01	5.07	-0.20	8.74
17歳	45.48	13.72	-20.48	0.98			35.50	13.43	-17.91	5.58	-1.48	8.90

肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

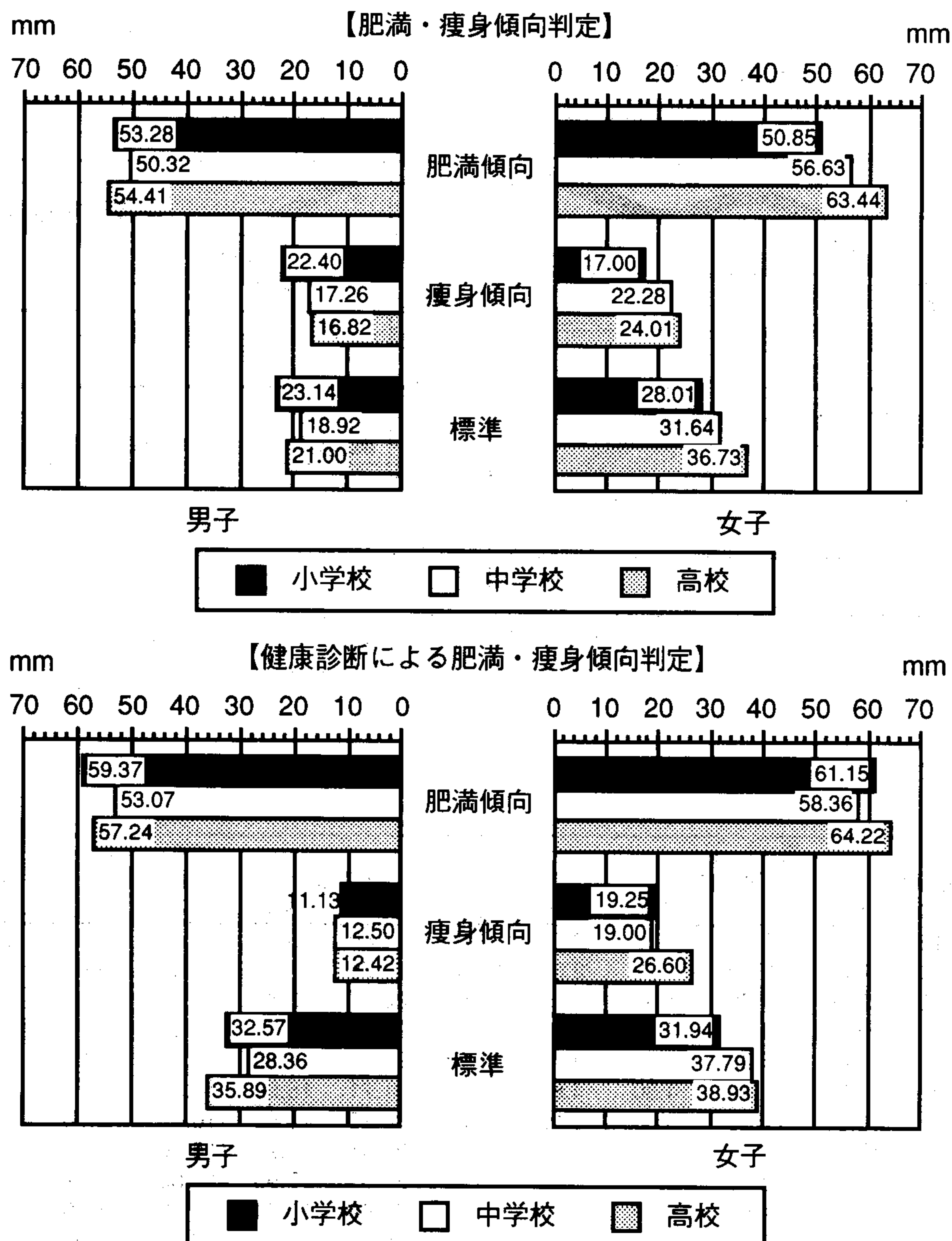
肥満傾向児の皮下脂肪厚は標準児のおよそ2倍

- 肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児の皮下脂肪厚（上腕背部十肩胛骨下角）は、男子は50～55mm、女子は50～65mmであった。健康診断で診断された肥満傾向児は、肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児よりも皮下脂肪が厚い傾向であった。特に女子は学年が高くなるにつれて皮下脂肪が厚くなる傾向であった。
- 肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児の皮下脂肪厚は、男女ともおおよそ16～22mmであった。男子において健康診断で診断された痩身傾向児の皮下脂肪

- 厚は11～13mmであり、肥満・痩身傾向による痩身傾向児の皮下脂肪より薄い傾向であった。
- 肥満・痩身傾向判定による標準児の皮下脂肪厚は、男子19～23mm、女子28～36mmであった。また、健康診断で診断された標準児の皮下脂肪厚は、男子28～35mm、女子31～39mmであり肥満・痩身傾向判定による標準児の皮下脂肪よりも厚い傾向であった。
- 肥満傾向児の皮下脂肪は、標準児と比べるとおおよそ2倍の厚さであった。

資料39 皮下脂肪厚の変容

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」, 1994



肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

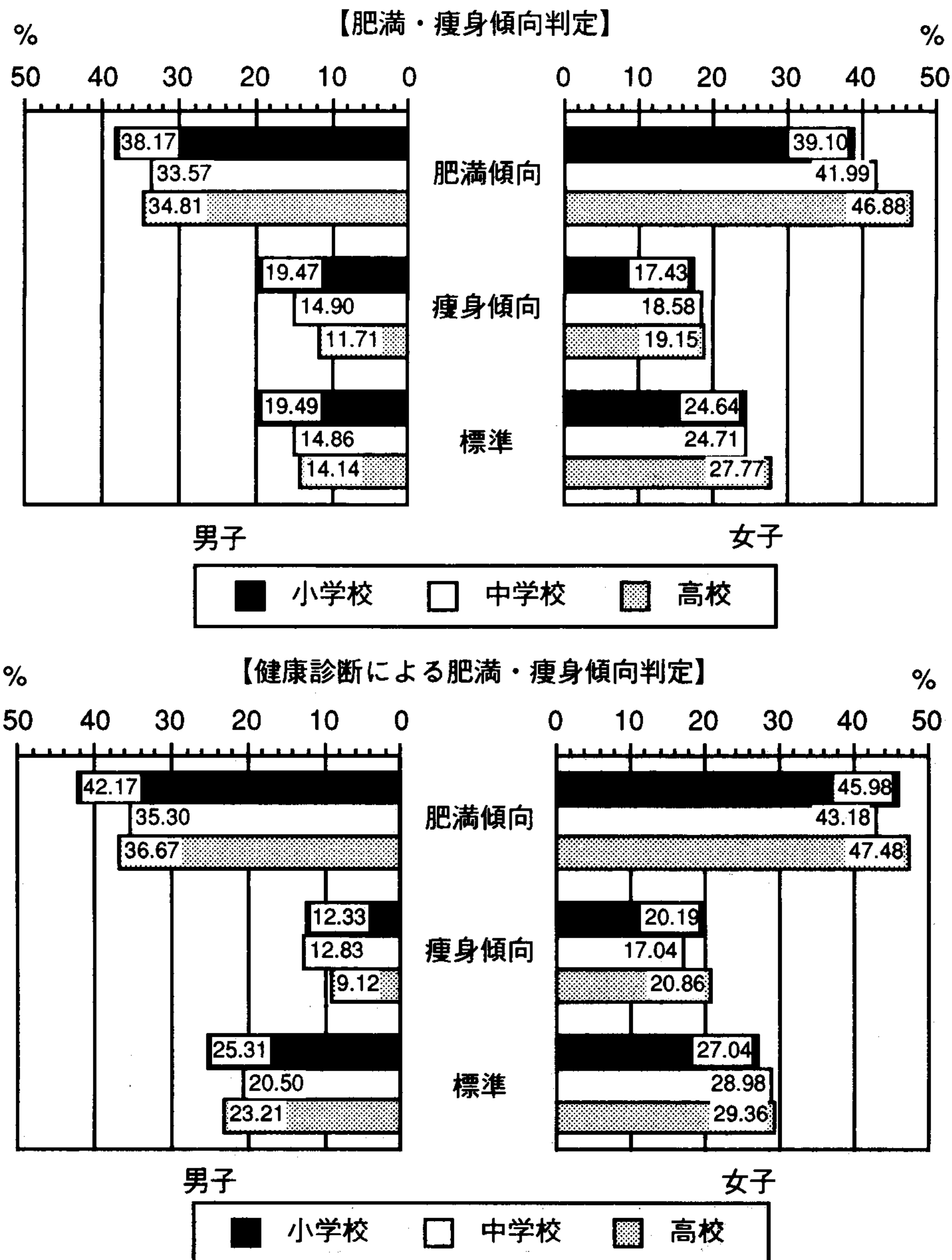
痩身傾向児の体脂肪率は標準児と同等

- 肥満傾向児の体脂肪率は男子33~42%、女子39~48%であり、肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児と健康診断で診断された肥満傾向児との間に大きな差は見られなかった。
- 肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児の体脂肪率は男子は小学生が19.47%、中学生が14.9%、高校生が11.71%であり、学年が進むにつれて体脂肪率が減少する傾向を示した。また、健康診断で診断された痩身傾向児の体脂肪率は9~13%であり、学年間では差がみられなかった。健康診断で診断された痩身傾向

- 児の体脂肪率は、肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児よりも少ない傾向であった。また、女子の痩身傾向児の体脂肪率は17~21%であり、健康診断、肥満・痩身傾向判定ともほぼ等しい値を示した。
- 肥満・痩身傾向判定による標準児の体脂肪率は14~19%であり、学年が進むにつれ低くなる傾向を示した。
- 肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児の体脂肪率は標準児とほぼ同じ値を示し、体脂肪率では顕著な差が見られなかった。

資料40 体脂肪率の変容

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994



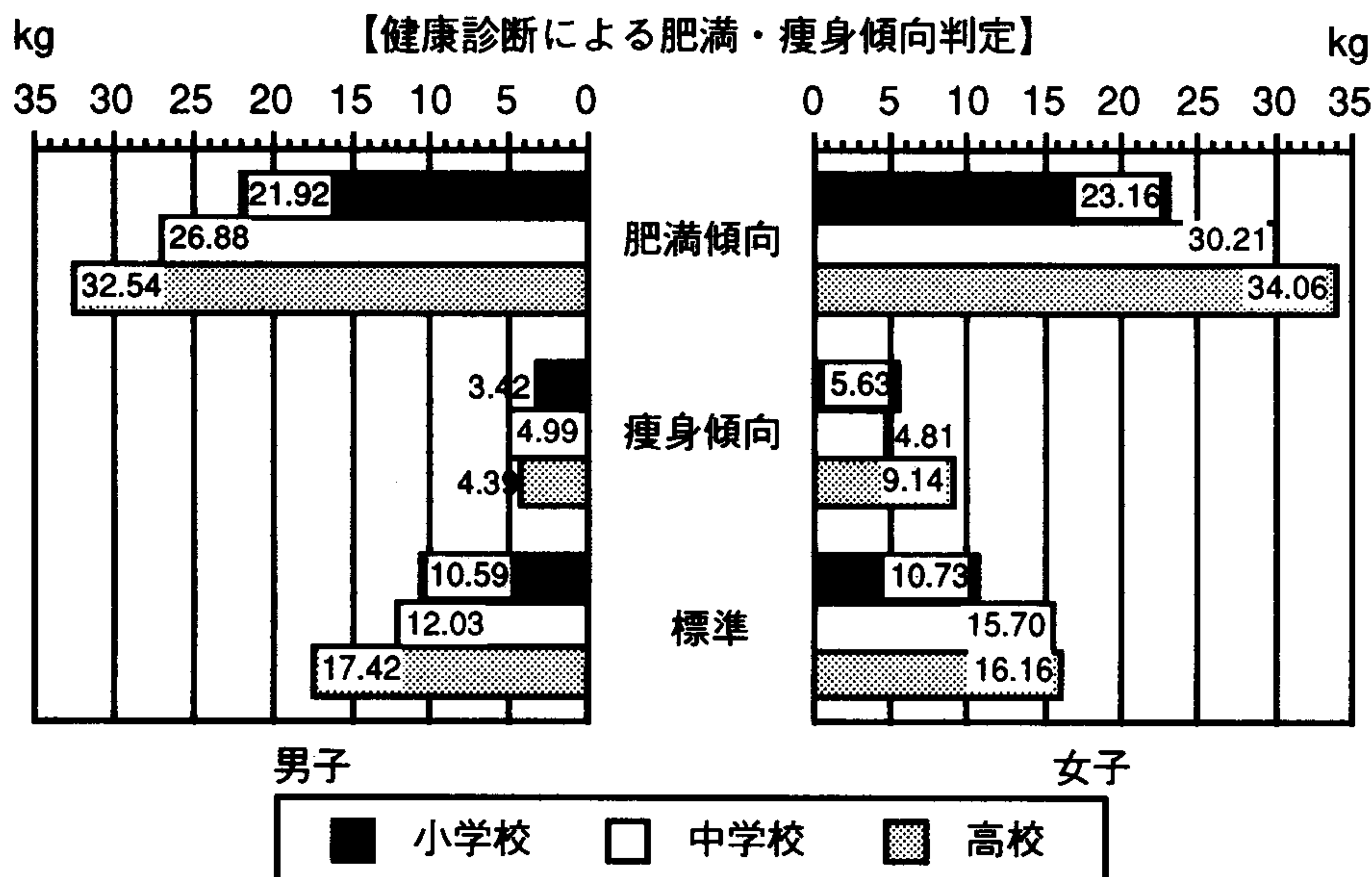
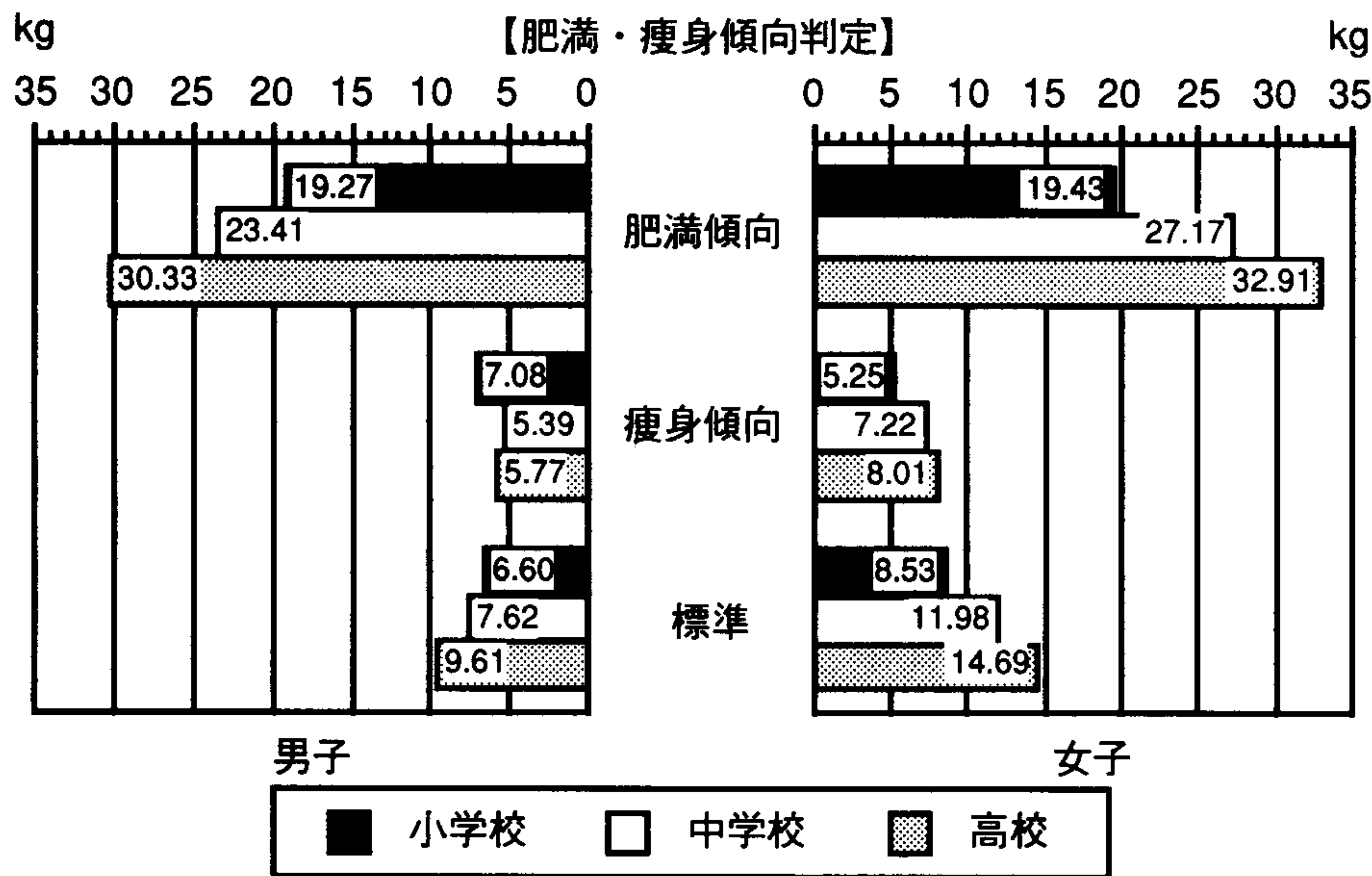
肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

肥満傾向児の体脂肪量は顕著に増加する

- 肥満傾向児の体脂肪量は男女とも19~33kgであり、肥満・痩身傾向判定、健康診断とも同様の値であった。さらに、肥満傾向児の体脂肪量は男女とも顕著に増加する傾向であった。
- 肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児の体脂肪量は男女とも5~8kgであった。
- 肥満・痩身傾向判定による標準児の体脂肪量は男子6~10kgであり、痩身傾向児との差は僅かであった。
- 健康診断で診断された標準児の体脂肪量は男女とも10~17kgであり、学年が進むにつれて増加する傾向を示した。また、肥満・痩身傾向判定による標準児の体脂肪量よりも大きい値を示した。

資料41 体脂肪量の変容

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」, 1994



肥満・痩身傾向の年齢に伴う変容

男子の痩身傾向児は除脂肪体重が少ない

- 男子では学年が進むにつれ除脂肪体重が大きくなるのに対し、女子では中学校から高校への変化量が少なかった。
- 肥満・痩身傾向判定では、女子は肥満傾向児、痩身傾向児、標準児の間の除脂肪体重には大きな差が見られない。つまり、肥満傾向、痩身傾向は体脂肪量によって決定されるようである。
- 肥満・痩身傾向判定では、男子は肥満傾向児、標準児の除脂肪体重は大きな差が見られず、体脂肪量の多さが決定要因といえよう。しかし、痩身傾向児は標準児と比較して除脂肪体重が少ない傾向である。両者は体脂肪率、体脂肪量では大きな差が見られないことを考慮すると、除脂肪体重の少ない児童生徒が痩身傾向児と判断される傾向がうかがえる。

資料42 除脂肪体重の変容

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994

